



北九州 エコタウン 事業エリア マップ

- ### 北九州エコタウン事業の特徴
- ①産学官の強力な連携のもと事業を進めています。
 - ②既存産業集積地や学術研究都市が近接しています。
 - ③広域的に廃棄物を取扱うことが可能です。
 - ④エコタウン内各企業、市内のリサイクル産業、さらに区域内の管理処分場との連携・活用により安全・確実な処理が可能です。
 - ⑤情報の公開に努め、市民との双方向のリスクコミュニケーションを進めています。
 - ⑥市窓口の一本化による手続きの迅速化を行っています。
 - ⑦原料となる廃棄物の確保や再生品の活用を支援しています。
 - ⑧環境未来ビジネス創出助成制度により、環境分野の社会実装、実証研究、FSを支援しています。



支援制度

環境未来ビジネス創出助成金

	社会実装	実証研究	FS
対象	環境ビジネスの創出に向けた研究成果等の早期事業化に向けた取組	廃棄物処理・リサイクル技術、環境保全技術、環境に配慮した製品開発技術、新エネルギー・省エネルギー技術等の研究開発	<ul style="list-style-type: none"> 社会実装、実証研究を行う前段階としての技術的内容、市場性及び経済性等の調査・研究 環境産業の展開において重要となる原材料の確保や物品の流通等に関する調査・研究
市内中小企業者が中心となって実施する場合	対象経費の2/3		
上記以外の場合	対象経費の1/2		
限度額(1年度当たり)	500万円	500万円	200万円
助成期間(対1テーマ)	最長2年間	最長3年間	原則1年

詳しくはこちらから
https://www.city.kitakyushu.lg.jp/contents/924_11329.html

北九州市環境局サーキュラーエコノミー推進課 〒803-8501 北九州市小倉北区内1-1
 ホームページ <https://www.city.kitakyushu.lg.jp/> <https://www.kitaq-ecotown.com> TEL.093-582-2630 FAX.093-582-2196



令和8年4月

北九州 エコタウン 事業



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



Kitakyushu
Eco-Town
Project

SDGs未来都市 北九州市

北九州エコタウン事業 ~世界の環境首都を目指して~

環境問題への積極的な取り組み

日本の近代産業の幕開けと公害問題の克服

日本の近代産業は、1901年に、国内初の本格的近代溶鉱炉を持つ官営八幡製鐵所が操業を開始した北九州で幕を開けました。北九州工業地帯は、四大工業地帯の一つとして日本の高度成長を支えてきましたが、その一方で、1960年代に深刻な産業公害をもたらしました。

この公害問題に対して、市民・企業・自治体が一体となって取り組みました。かつては大腸菌すら棲めない「死の海」と呼ばれた洞海湾には、100種類以上の魚介類が戻ってきました。「七色の煙」と呼ばれ、日本一の降下ばいじんを記録した空は、国から「星空の街」に選定されるまでに改善され、私たちは美しい海と空を取り戻しました。



汚れた洞海湾 (1960年代)

よみがえった洞海湾 (現在)

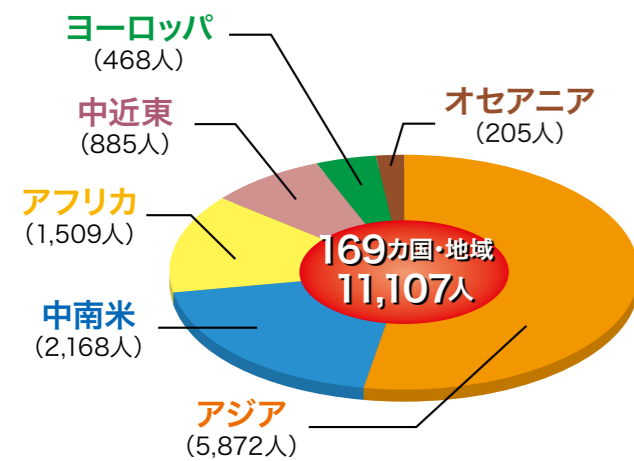
煙におおわれた空 (1960年代)

青空を取り戻した空 (現在)

公害克服の経験を活かした国際技術協力

北九州は、公害克服の過程で培った技術を開発途上国の環境改善に役立てようと、1980年代から専門家派遣や研究員受入れなどを行ってきました。また、市民・企業・自治体が一体となった環境の取り組みは、国際的にも環境改善のモデルとして高く評価されています。

■ 各地域からの研修員の受入実績 (2025年3月現在)



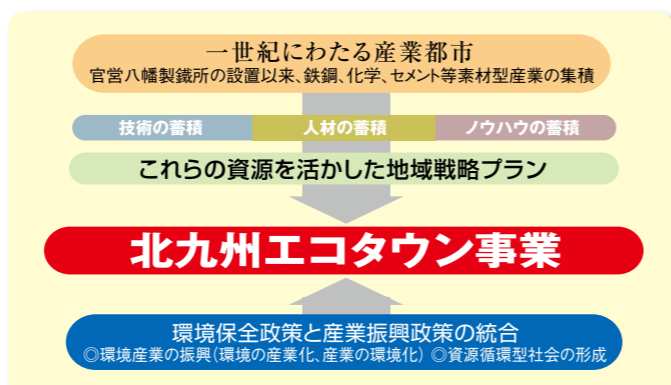
■ 国際的評価等

1990年	国連環境計画から日本の自治体では初めて「グローバル500」を受賞
1992年	リオデジャネイロで開催された国連環境開発会議(地球サミット)で「国連地方自治体表彰」を日本で唯一受賞
2000年	北九州で、国連ESCAP「アジア・太平洋環境大臣会議」開催
2002年	ヨハネスブルグサミットで、北九州の地方自治体支援をモデルにした「北九州イニシアティブ」が実施計画に明記
2006年	ワングリ・マータイ氏(ノーベル平和賞受賞者)「環境のことは北九州に聞け」
2011年	経済協力開発機構(OECD)の推進するグリーンシティプログラムのグリーン成長都市として、アジアで初めて選定
2012年	スラバヤ市(インドネシア)と「環境姉妹都市提携」を締結
2014年	ハイフォン市(ベトナム)と「姉妹都市協定」を締結
	プノンペン都(カンボジア)と「姉妹都市協定」を締結
2016年	北九州で「G7北九州エネルギー大臣会合」が開催。共同声明「グローバル成長を支えるエネルギー安全保障のための北九州イニシアティブ」を採択
2017年	ダバオ市(フィリピン)と「環境姉妹都市提携」を締結
2018年	OECDより「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」としてアジアで初めて選定
2019年	UNEPアジア太平洋地域事務所による東南アジアにおけるプラスチック廃棄物連携枠組コンセプトに係る関心表明
2025年	テランガナ州(インド)と「友好協力協定」を締結

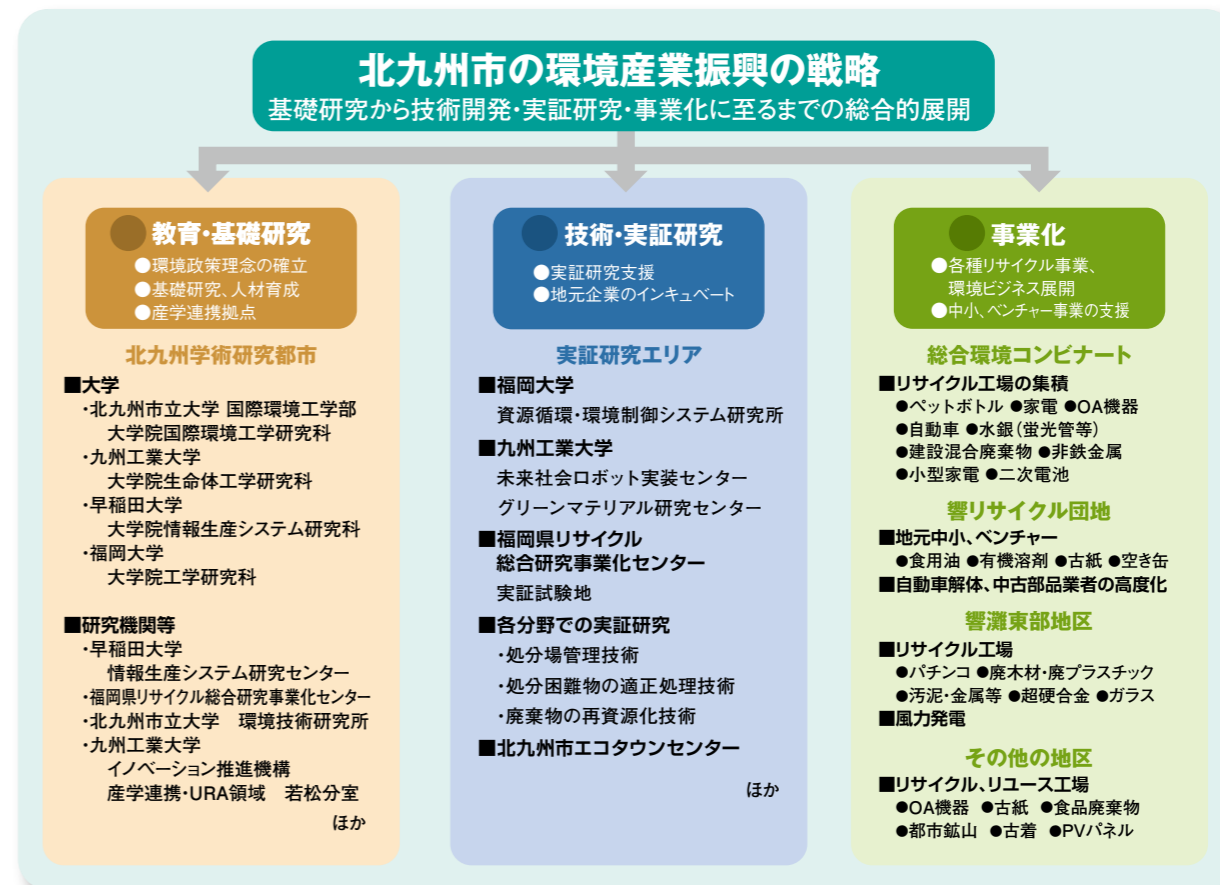
エコタウン事業

エコタウン事業は、ある産業から出るすべての廃棄物を新たに他の分野の原料として活用し、あらゆる廃棄物をゼロにすることを旨とし、先進的な環境調和型のまちづくりを推進することを目的として、1997年に国で創設されたものです。

北九州は、長年にわたる「ものづくりのまち」としての産業基盤や技術力、公害克服の過程で培われた人材・技術・ノウハウ等を活かし、資源循環型社会の構築を図るため、「環境保全政策」と「産業振興」を統合した独自の地域政策として、1997年7月に国から認定を受けた後、「北九州エコタウン事業」を推進しています。



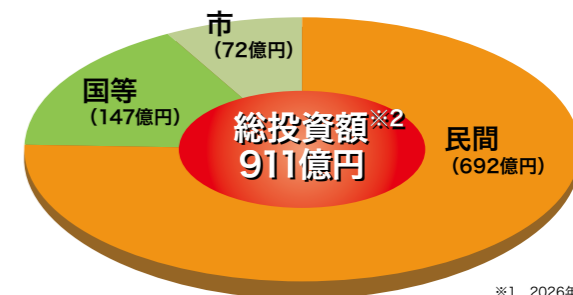
●総合的な展開(北九州方式3点セット)



エコタウン事業のこれまでの成果

各種リサイクル法に対応したものと独自に進出したものを合わせ、我が国最大級の事業集積

- 事業数 27事業^{※1}
- 実証研究数 68研究^{※2} (終了分を含む)
- 雇用者数 約1,060名^{※2}



※1 2026年3月時点
※2 2025年3月時点

サーキュラーエコノミーの推進、環境ビジネス、環境経営の支援

①北九州循環経済ビジョン推進協議会

市内のリサイクル事業者と大学を中心に、本市の環境産業が目指すべき方向性を示した「北九州循環経済ビジョン」を作成し、ビジョンの実現に取り組むことで、地域一体となった資源循環エリアを創出していくことを目指しています。

②北九州市環境産業推進会議

環境・エネルギーに関する講演会を主催するほか、関係団体が実施する行事や助成などの情報発信や、企業と研究機関の連携推進などを行い、関係団体・企業・行政によるネットワークの強化を図っています。

③エコアクション21

市内中小企業者等の環境への取組を促進するため、環境省が策定した環境経営システムである「エコアクション21」の認証・登録に向けた支援をしています。





響灘東部地区

響灘ビオトープ

**北九州リサイクルポート
(総合静脈物流拠点港)**
北九州港は、2002年5月に国土交通省から循環資源を安全かつ効率的に取り扱える港としてリサイクルポートの指定を受け、2005年度から整備に着手し、2007年6月に供用開始しました。全国のリサイクルポートと循環資源の海上輸送ネットワークを形成し、循環型社会の構築に貢献します。



北九州市エコタウンセンター

エコタウン事業を生きた教材として活用する環境学習拠点として、2001年6月に開設。
ここでは、エコタウン事業の取り組みや市内の環境関連企業をパネルや展示品などで紹介しています。
また、リサイクル工場の見学コースを用意し、見学者を各工場に案内しています。



本館

次世代エネルギーパーク

暮らしを支えるエネルギー供給基地や太陽光・バイオマス発電などの再生可能エネルギー施設、さらに国内最大級の洋上風力発電の稼働が始まるなど、さまざまなエネルギー関連施設を見学し、楽しく学ぶことができます。また、エコタウンセンター別館に展示コーナーを設け、各施設の見学会も実施しています。



見学の申込み・問合せ先
TEL. 093-752-2881
FAX. 093-752-2882
(工場見学・施設見学会は事前予約が必要です)

【住所】北九州市若松区 向洋町10番地20
【開館時間】9:00~17:00
【休館日】日祝日、年末年始
【入館料】無料
(北九州市外の方の工場見学は資料代が必要)



総合環境コンビナート

環境産業の事業化を展開するエリア。各事業が相互に連携し、ゼロ・エミッション型の環境産業コンビナート化を図ることにより、資源循環拠点をめざします。



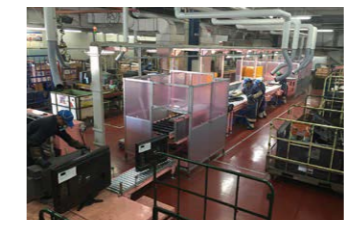
ペットボトルリサイクル事業
市町村により家庭から分別収集されたペットボトルや、事業者により自販機・コンビニ・スーパーから回収されたペットボトルから高品質の再生PET樹脂製品を生産。食品透明容器や飲料ボトル、人工皮革など生活に欠かせない必需品に生まれ変わる。
■事業主体 西日本ペットボトルリサイクル株式会社



OA機器リサイクル事業
使用済みのOA機器(コピー機、ファクシミリ、プリンター、パソコンなど)を分解して、新たな機器の部品やプラスチック、アルミ、鉄などへリサイクルする。
■事業主体 株式会社リサイクルテック



自動車リサイクル事業
「自動車リサイクル法」に基づく自動車解体業。自動車メーカーから精緻な解体を委託され、解体後は鉄鋼原料として転炉に投入するなど高度なリサイクルを行う。全部再資源化認定(法第31条認定工場)。
■事業主体 西日本オートリサイクル株式会社



家電リサイクル事業
「家電リサイクル法」に基づき、廃家電製品(エアコン、テレビ、冷蔵庫、洗濯機)を高度に分解・選別し、鉄、アルミ、銅、プラスチックなどを回収してリサイクルする。
■事業主体 西日本家電リサイクル株式会社



水銀使用製品リサイクル事業
事業所や一般家庭から排出される水銀使用製品(蛍光灯、乾電池等)を分解し、金属、ガラス、鉄、亜鉛・マンガンなどを回収し、リサイクルする。
■事業主体 株式会社ジェイ・リライト



建設混合廃棄物リサイクル事業
建築物の解体現場などで発生する混合廃棄物を、手選別、機械選別により「がれき類」「木材」「金属類」などに分別し、リサイクルする。また、廃石膏ボード及び廃プラスチックのリサイクルも行う。
■事業主体 株式会社NRS



非鉄金属総合リサイクル事業
廃家電・廃自動車等から発生するラジエーター、電子基板、被覆銅線等を、独自の選別処理ラインにより各種金属に分別・回収し、高品位な非鉄原料として素材加工メーカーを中心に提供
■事業主体 日本磁力選鉱株式会社



小型家電リサイクル事業
使用済み携帯電話や小型電子機器及び廃基板類を処理・加工することにより、鉄やアルミなどベースメタルはもとより、貴金属(金、銀など)、レアメタル(パラジウム)を濃縮回収する。
■事業主体 日本磁力選鉱株式会社



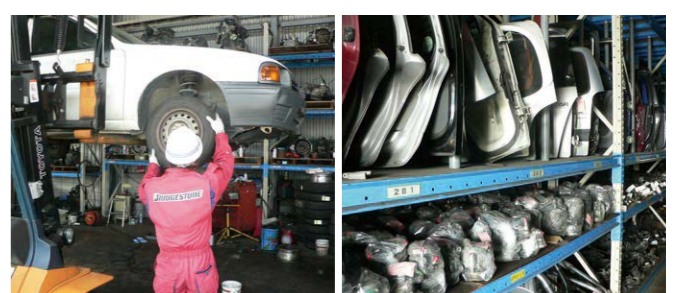
二次電池リサイクル事業
小型電子機器や家電由来の二次電池を過熱蒸気式熱分解炉で処理し、レアメタル(コバルト・ニッケル)を回収、再資源化。低酸素雰囲気下で熱分解することで金属の酸化を防止、高い回収率でリサイクルが可能。
■事業主体 日本磁力選鉱株式会社

響リサイクル団地

市が土地を整備し、事業者が長期間賃貸することで、中小企業の環境分野への進出を支援します。

自動車リサイクルゾーン

市街地に点在する自動車解体業7社が集団で移転し、協同事業を行う全国初の取り組み。より適正で効率的な自動車リサイクル事業を実施。全部再資源化認定(法第31条認定工場)。中小企業基盤整備機構の高度化事業。
■事業主体 北九州ELV協同組合



北九州学術研究都市

国立・公立・私立の大学・大学院や研究機関、研究開発型企業が一つのキャンパスに集まる産学連携・研究開発拠点です。

約2,600名の学生と300名を超える研究者が在籍し、「環境」と「情報」技術を中心に、幅広い分野で研究開発や人材育成を進めています。

環境関連研究事例

- 省エネ純水製造を目指した孔拡散分離膜の開発
- 改質木質バイオマス燃焼灰を使用したカーボンニュートラルコンクリートの開発
- CO₂資源化のための亜鉛ガス拡散電極の開発
- 地域課題である“竹”の循環利用に向けた次世代難燃性素材の創製

他、先導的な低炭素化に関する取り組みに助成事業等を通して支援しています。



北九州市立大学
国際環境工学部
大学院国際環境工学研究科

九州工業大学大学院
生命体工学研究科

福岡大学大学院
工学研究科

早稲田大学大学院
情報生産システム研究科

実証研究

■実証研究エリア

企業・行政・大学の連携により、最先端の廃棄物処理技術やリサイクル技術などを実証的に研究する機関を集積し、環境・エネルギー関連技術開発拠点をめざします。



福岡大学資源循環・環境制御システム研究所



九州工業大学
未来社会ロボット実装センター
グリーンマテリアル研究センター



北九州市
エコタウンセンター
廃棄物研究施設



バイオマス燃料製造方法
に関する実証研究

■研究主体
株式会社FUKUTEK



金属パレット化技術
実証研究

■研究主体
株式会社KARS



飛灰処理薬剤の商品化技術
に関する実証研究

■研究主体
株式会社GEラボアナリス



グリーンLPガス直接合成
技術開発実証研究施設

■研究主体
日本グリーンLPガス推進協議会

■賃貸用地の概要

所在地／北九州市若松区向洋町10番地内(北九州エコタウン事業「実証研究エリア」)

※JR小倉駅より車で30分

貸付価格／約40円(1ヶ月、1㎡あたり)

例えば、1,000㎡の用地を1年借りた場合、賃貸料は約50万円です。

貸付区画／500㎡～1,500㎡

申込／随時受付中(申込・お問合せ先は裏面のとおり)

響リサイクル団地

フロンティアゾーン 地元中小ベンチャー企業が、独自の先駆的な技術やアイデアを活かし、各種リサイクル事業を展開



食用油リサイクル事業

食品工場等から出る廃食用油を原料として、建築塗料の原料、飼料、軽油代替燃料等を製造

■事業主体 九州山口油脂事業協同組合



使用済有機溶剤 精製リサイクル事業

液晶・半導体・医薬品などの生産工程から排出される使用済有機溶剤を、蒸留による分離技術を利用して再び高純度の有機溶剤に精製

■事業主体 九州リファイン㈱



古紙リサイクル事業

家庭や事業所から出る古紙を選別・破砕・圧縮し、製紙原料、家畜用敷きわら等にリサイクル

■事業主体
株式会社KARS
株式会社KARS



空き缶リサイクル事業

空飲料容器のスチール缶、アルミ缶から、CAN to CANも可能な高純度・高品位のスチールペレット、アルミペレット、アルミブリケットを生産

■事業主体 株式会社KARS・株式会社KARS

響灘東部地区



パチンコ台リサイクル事業

パチンコ店から排出されるパチンコ台、パチスロ機を高度に選別し、リユース部品・リサイクル原料として製品化

■事業主体 株式会社ユーコーリプロ



風力発電事業

1基当たりの出力1,990kWの風力発電事業で電気は電力市場を通じて特定の企業へ売却

■事業主体 株式会社北九州風力発電研究所



廃木材・廃プラスチック リサイクル事業

廃木材と廃プラスチックを混合し、高い耐久性、耐候性と意匠性をあわせもつ建設資材を製造

■事業主体 株式会社エコウッド



汚泥・金属等リサイクル事業

独自の「調合」技術で、多種多様な発成品(産業廃棄物)から、安定した品質のセメント原料や金属等を製造

■事業主体
株式会社アマタセキュラー
北九州循環資源製造所



超硬合金リサイクル事業

亜鉛蒸留法とイオン溶解法を原料や状況に応じて選択し、ドリルやチップをはじめとした超硬工具等の原料となる高品位のタングステンカーバイドを回収するなど、幅広い超硬合金リサイクルを行う。

■事業主体 株式会社鏡光正



ガラスリサイクル事業

廃ガラスを独自のノウハウを持って処理設備でガラスカレット化し、さらに独自のブレンド技術によりガラスメーカーの仕様に沿ったガラスカレットを販売。

■事業主体 株式会社西日本ガラスリサイクルセンター

その他の地区



OA機器リユース事業

リース会社や企業、官公庁で不要となったOA機器(主にパソコン)を買い取り、検査・データ消去・クリーニングなどの作業を施した後、リユースを行う。

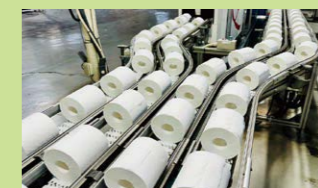
■事業主体 株式会社アンカーネットワークサービス
■所在地 八幡西区陣原



太陽光パネルリサイクル事業

日本初の熱処理によるリサイクル処理を商業化した設備。焼成技術ならびに割れたパネルからの資源回収を可能にした高度選別技術を実装。熱回収まで含めて100%近いリサイクルが可能。

■事業主体 株式会社リサイクルテック
■所在地 若松区向洋町



古紙リサイクル事業 製鉄用フォーミング抑制剤製造事業

古紙を原料としてトイレペーパーを製造。その際に発生する製紙汚泥を製鉄用フォーミング抑制剤に加工

■事業主体 九州製紙㈱
■所在地 八幡東区前田洞岡



食品廃棄物リサイクル事業

食品工場・スーパー・飲食店・自治体などの食品残渣及び同残渣を発生現場で1次発酵させた発酵物を収集・運搬し、完熟堆肥・肥料にリサイクルしたものを農業事業者へ販売

■事業主体 株式会社ウエルクリエイト
■所在地 若松区向洋町



都市鉱山リサイクル事業

パソコンやサーバーの内部に組み込まれている廃電子基板から貴金属を分離回収し、過熱水蒸気及び塩化鉄液を活用して貴金属、レアメタル及びベースメタルを抽出して再資源化

■事業主体 株式会社アステック入江
■所在地 若松区向洋町



古着リサイクル事業

一般家庭の古着や企業ユニフォームなどの衣料品を受入、自動車用内外装材等の原料にリサイクルする。

■事業主体 株式会社エヌ・シー・エス
■所在地 若松区向洋町

北九州エコタウン企業の情報はコチラから!

エコタウン企業の紹介

<https://www.kitaq-ecotown.com/ecotown/cluster.php>



エコタウン実証研究の紹介

<https://www.kitaq-ecotown.com/ecotown/research/>

